

研究課題名：個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究

研究責任者：公益財団法人宮城県対がん協会・研究局長 深尾彰

## 1. 研究の対象

研究対象は2018年4月～2022年3月における50～69歳の胃がん検診受診者。研究対象地域は、間接 X 線検査による検診については宮城県対がん協会が実施している宮城県内の地域から一定の基準で選定した市町村、及びやまがた健康推進機構が半日人間ドックを実施している山形県内市町村とし、内視鏡検査による検診についてはすでに内視鏡検診の実施体制が整備されている地域（新潟市、米子市、鳥取市、由利本荘市、金沢市、前橋市）を選定しました。

なお、X 線検査による検診の地域での対象者の募集は2019年2月までで終了しています。

## 2. 研究目的・方法

胃がん検診受診者を対象として胃がん累積罹患率を前向き研究の手法で測定することによって、ヘリコバクタ・ピロリ感染の有無と胃粘膜萎縮病変の有無で層別したサブグループごとの適正な検診受診間隔を提案することを目的としています。具体的には、現在、X 線検査あるいは内視鏡検査による対策型胃がん検診を実施している地域（施設）の受診者のうち、本研究への参加に同意を得た受診者に通常の検査に採血検査（ヘリコバクタ・ピロリ抗体及び血清ペプシノゲン値）を追加し、その後の2回の検診受診（X 線検査については1年間隔、内視鏡検査については2年間隔、それぞれ初回を含めて合計3ラウンド）を勧奨した上でその後の胃がん罹患を追跡していき、ヘリコバクタ・ピロリ感染の有無と画像診断による胃粘膜萎縮の有無別に層化したサブグループごとの胃がんの累積罹患率を算出することにしています。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料としては、検診受診時の血液（ヘリコバクタ・ピロリ抗体及び血清ペプシノゲン値測定用）。情報としては、氏名、生年月日、住所、検診結果（血液検査の結果、画像検査の所見、検診判定等）、検診受診時の健康状態（アンケート調査）等です。氏名、生年月日、住所については、本研究の眼目である胃がん罹患率の測定のため、全国がん登録や人口動態統計等との記録照合や住民基本台帳や診療録の閲覧等に必要不可欠な情報であり、インフォームドコンセントはもちろん、個人情報保護法及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて適切に管理運用しています。

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますので、お申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて受診者様もしくは受診者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも受診者様に不利益が生じることはありません。

なお、本研究については、研究専用のホームページ <http://j-sasg.jp/>でもご紹介しています。

#### 紹介先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先

公益財団法人宮城県対がん協会研究局 AMED 研究事務担当

〒090-0011 仙台市青葉区上杉 5-7-30

TEL 090-1496-0176(担当者直通)

月～金 9:00～17:00(土日祝日は除く)